

## 分類名〔果樹〕

# 1 黄化处理を利用した取木によるリンゴ極わい性台木「JM5」、 「M. 27」の根量増加法

園芸試験場

### 1) 取り上げた理由

極わい性台木「JM5」は挿木繁殖は簡単なものの、その後の生育が緩慢であり、また「M. 27」は発根が困難であるため、根系台木マルバカイドウに接木して1年経過した後でもわい性台木部分から十分に発根した優良な苗木を得ることは難しい。そこで、黄化处理を取木法に応用し、わい性台木の根量増加法について検討した結果、成果が得られたので普及技術とする。

### 2) 普及技術

#### (1) 黄化处理を利用した取木の手順

- a 前年の挿し木繁殖で発根したマルバカイドウ（マルバカイドウの長さは15cm）に極わい性台木（「JM5」、 「M. 27」）を接木する。
- b 接木したわい性台木の発芽前に、接木苗全体を厚さ0.1mmのシルバーポリで被覆し、完全に遮光する。
- c 黄化した新梢が10cm以上に伸長した時点で、黄化した部分に土寄せを行う。土寄せした部分にはトンネル状に黒寒冷しゃで50%の遮光を行い、黄化部分の過度の日焼けを防止する。
- d 新梢の先端が緑化し、新葉が数枚展葉した時点で寒冷しゃを取り外す。その後は灌水、施肥、土寄せを数回行う。

(2) 黄化处理を利用した取木で得たわい性台木からの発根率は通常のと比較し、顕著に高く、発根数、根長も十分に豊富な根量が得られる。

(3) 黄化处理を利用した取木で得た「JM5」は、やや新梢長が短い、マルバカイドウを根系台木とし、「ふじ」を接木した後の生育は通常のと遜色ない。

(4) 根系台木を除去すれば、十分に発根したわい性台木が得られる。

### 3) 対象地域等

県下一円

### 4) 特に留意すべき事項

- (1) 本法により、「JM5」、 「M. 27」の発根率を高め、優良苗の普及が可能になる。
- (2) わい性台木を接木するマルバカイドウは、根量が十分にある生育良好なものを選ぶ。
- (3) 通気性、保水性に富んだ膨軟な土壌で土寄せする。

### 5) 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究機関及び担当部科名 園芸試験場 栽培部 果樹科
- (2) 研究課題名及び研究期間 リンゴ園地の規模拡大に対応した低樹高栽培による省力生産技術  
平成6～9年

(3) 参考データ

表-1 極わい性台木の発根に及ぼす黄化処理を利用した取木の影響 (平成6年)

処 理	平均新梢長 (cm)	発根率 (%)	発根数 (本)	平均根長 (cm)	茎径 (mm)
M.27					
黄化処理	87.5	95.7	32.9	12.6	14.7
慣 行	87.2	47.4	1.9	8.1	14.8
JM5					
黄化処理	54.1	97.9	11.0	16.0	7.8
慣 行	73.3	80.4	2.5	10.4	7.5

<sup>x</sup>いずれも根系台木にマルバカイドウ使用し，慣行は慣行取木

表-2 極わい性台木に接いだ「ふじ」の生育に及ぼす黄化処理を利用した取木の影響 (平成9年)

処 理	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹幅 (cm)	主幹延長枝長 (cm)	新梢長 (cm)
M.27					
黄化処理	143NS <sup>z</sup>	4.3NS	74* <sup>y</sup>	83.8NS	65.3NS
慣 行	147	4.0	56	93.1	65.2
JM5					
黄化処理	181NS <sup>z</sup>	5.2NS	86* <sup>y</sup>	95.0**	73.5NS
慣 行	191	5.9	112	118.6	79.2

<sup>z</sup> NSは有意差なし

<sup>y</sup> \*は5%レベルで有意差あり。\*\*は1%レベルで有意差あり

<sup>x</sup> いずれも根系台木にマルバカイドウ使用し，慣行は慣行取木



図-1 黄化処理を利用して取木した「JM5」の発根状況



図-2 慣行の「JM5」の発根状況

(4) 発表論文等

宮城県園芸試験場特別研究報告第1号。